



ピラクロニル剤のアメリカコナギ、ウキアゼナ、 ホソバヒメミソハギおよびナガボノウルシに対す る高い除草効果

～ピラクロニルはバッチリ、ビクトリーZ、サラブレット KAI 等に含まれる成分です～

近年、全国各地のダイズ畑では帰化アサガオ類(図1)やヒロハフウリンホオズキなどが、また、ムギ畑ではカラスムギ(図2)やネズミムギが蔓延し問題となっています。これらは、主として海外からの輸入飼料等に混入してきた種子が、家畜堆肥に混じり圃場にまかれ、広がっていったものと考えられています。水田においても海外からの外来雑草が問題となってきています。本報告では、これら外来種の水田雑草の中で、ピラクロニルの除草効果が確認された主な雑草種の来歴と特徴ならびに除草効果について紹介します。

1. アメリカコナギ、ウキアゼナ、ヒメミソハギ、ナガボノウルシの来歴と特徴(清水矩宏ら 2001)

- ★**アメリカコナギ(ミズアオイ科)**:北アメリカ原産で、南北アメリカやヨーロッパの水田でよく見られる(図3)。日本国内では1970年代後半に岡山県で見つかり、同県ではよく見られている。類似種にコナギやミズアオイがあるが、葉や花の形から容易に区別できる。花色は青や白。
- ★**ウキアゼナ(ゴマノハグサ科)**:北アメリカ原産で、北アメリカや東南アジアに分布している(図4)。国内では1954年に岡山県で最初に見いだされている。主として中部以西に多い。
- ★**ホソバヒメミソハギ(ミソハギ科)**:熱帯アメリカ原産。在来のヒメミソハギよりは葉が長く(3~8cm)、基部は耳状で対生(図5)。1952年に佐世保市で見いだされ、現在、関東から九州で見られている。
- ★**ナガボノウルシ(ナガボノウルシ科)**:熱帯アフリカ原産で、熱帯から亜熱帯にかけて広く分布している(図6, 7)。日本では、1965年に熊本県玉名市で初めて採取された。九州地域では所々で多発している。



図1. ダイズ畑に蔓延した帰化アサガオ類(2010年10月愛知県安城市)



図2. カラスムギが蔓延した収穫前のコムギ畑(2015年6月三重県鈴鹿市)



図3. アメリカコナギ(2014年7月上旬、岡山市)



図4. ウキアゼナ(2014年7月上旬、岡山市)



図5. ホソバヒメミソハギ(2015年9月上旬、岡山市)



図6. ナガボノウルシ(2012年8月上旬、タイ国)



図7. ナガボノウルシの花序(2012年3月上旬、タイ国)

2. ピラクロニルのアメリカコナギ、ウキアゼナ、ホソバヒメミソハギに対する除草効果

表1. ピラクロニル剤の主要雑草に対する除草効果（2015年 岡山市での社内試験結果）

薬剤名	(代播き日) 移植日	処理月日	移植後日数(日)	散布時葉令	薬量(kg/10a)	遠視調査 (100:完全枯死 0:除草効果無し)										薬害	
						ノビエ	セリ	ウリカワ	ホタルイ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	アメリカコナギ	ウキアゼナ	ホソバヒメミソハギ	タマガヤツリ		キカシグサ
ピラクロニル1キロ粒剤 (ピラクロニル1.8%)	(6月10日) 6月12日	6月12日	0	発生前	1	100	10 (開花)	100	100	30	85	100	100	100	100	100	無
バッチリLX 1キロ粒剤 (イマズスルフロ0.9%、オキサジメクロホン0.4%、ピラクロニル2.0%、プロモブチド9.0%)		6月12日	0	発生前	1	100	98	100	100	100	100	100	100	100	100	100	無

試験：圃場枠試験 (2.5m×1.8m) 反復数：2 調査：8月4日 (薬剤処理53日後)

結果：ピラクロニル単剤のピラクロニルは、ヒエ、ホタルイを始め、アメリカコナギ、ウキアゼナ、ホソバヒメミソハギなどに高い除草効果を示した(表1)。ただし、多年生草のセリやミズガヤツリに対しては効果が劣った。セリやミズガヤツリに対しては混合剤のバッチリLXで高い除草効果を示した。

結論：ピラクロニル混合剤は、アメリカコナギ、ウキアゼナ、ホソバヒメミソハギに対して高い除草効果を示す。

3. ピラクロニルのナガボノウルシに対する除草効果

表2. ピラクロニルのナガボノウルシに対する除草効果（2014年 熊本県玉名郡玉東町での社内試験結果）

区	移植日	薬剤処理日	薬量(ml/10a)	ナガボノウルシ発生本数(本/m ²)
ピラクロニルフロアブル (ピラクロニル3.6%)	6月21日	6月28日(移植後7日)	500	0
無処理		—	—	38

試験：圃場試験(18a)で、中に2ヶ所の無処理枠(50cm×50cm)を設置。 雑草調査：7月18日(薬剤処理20日後)

結果：ピラクロニル単剤のピラクロニルはナガボノウルシに対し高い除草効果を示した(表2、図8、図9)。

結論：ピラクロニル混合剤はナガボノウルシに対して高い除草効果を示す。



図8 ピラクロニル処理圃場と無処理枠 (7月18日)



図9 無処理枠内のナガボノウルシ (7月18日)